

助け合いながら生きていこう

～ふたたび地域で生活するということ～

スムコさんは40代の女性です。ふだんは福祉サービス事業所を利用し、友人も多い人です。

あるとき、スムコさんは眠れなくなり夜中にごそごそすることが何度もあり、アパートの階下の人から苦情がありました。そのあとスムコさん本人が希望して精神科病院へ入院しました。スムコさんや病院の人たちも早く具合がよくなるようにがんばりましたが、なかなかうまくいかず、あっという間に1年がたちました。その間にスムコさんは借りていたアパートの家賃が払えなくなり、引き払うことになりました。

1年以上過ぎてようやく退院する元気が出て、スムコさんと病院の職員、福祉サービス事業所の職員や仲間と退院の相談をするようになりました。スムコさんは病院の職員と一緒にアパート探しを始めます。スムコさんの希望は「せまくてもいいので、静かなところに住みたい」ことでした。

最初の不動産屋は物件を見せてくれましたが、騒がしい場所でした。「もっと静かなところはありますか」と聞くと、「生活保護で精神科にかかっている人だとねえ」と申しわけなさそうに不動産屋は言いました。2番目の不動産屋は、ゆっくりとスムコさんの話を聞いていました。そして駅から少し遠いのですが、スムコさんが望んでいる静かなアパートを紹介しました。スムコさんは「ここに住みたい!」と希望しました。大家さんに話をすると、「保証人はどうするのか、病気が悪くなって周囲に迷惑をかけたらど

うするのか」と聞かれました。

保証人は保証会社になってくれますが、なにかあったときと言われても、とスムコさんは大変困りました。スムコさんはつらい気持ちを仲間を受け止めてもらいつつ、今後のことを考えています。

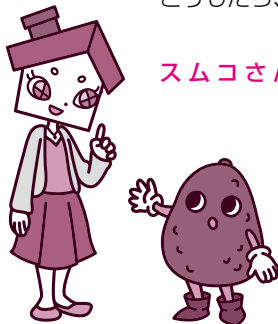
スムコさんのように静かなところがよい人、静けさより駅から近いほうがよい人、など、その人にとって望む環境は違います。自分に合ったところに住めるかどうかはとても重要で、生活の質や症状のコントロールを左右することもあります。また、周囲の人と助け合っていくことはだれにとっても大切なことではないでしょうか。

【アドボクんの疑問から】

アドボくん：どうして精神科に入院や通院をしていると、なかなかアパートが見つからないの？

スムコさん：精神科にかかっている人は、具合が悪くなったときに他人に迷惑をかけると思われているのよ。

アドボくん：病気の調子がいいのに、そう思われるのは困ると思う。どうしたら、困ることがなくなるかなあ。



スムコさん：みんなで少しずつでも考えていければいいわね。権利条約でも、どこでだれと暮らすかを選ぶ権利があるとされているのよ。